

あしふ

115号 6 1973



わいふ 115 号 も く じ

1973年6月号

【社会の窓】

PTA会長奮戦記(その7)	上野 章子	3
私の結婚観	土井 邦子	7
入学して一ヵ月	平田恵美子	7
随 感	後藤美和子	9
御神籤、外	重川 雄	12
再び渡辺様へ	照井 陽子	15

【テーマ原稿】

母親が外で働くことについて	照井 陽子	17
昼寝を阻止するために	高木由利子	18

【文芸】

詩「クラス会」	野口 良子	6
ある青春(19)	津堂 健治	21

【読書室】

わたしの中の沖繩	小山ヤエ子	25
「主婦とおんな」	S	27
「日本沈没」	十日市睦子	28

【お便り】

土井邦子.....11	藤浦だい.....16	樺 逸子.....29
編集部よりお願い(アンケート・会員名簿について)		29
例会のお知らせ		29
編集後記		30
表紙絵の言葉		8

【社会の窓】

P T A 会長奮戦記（その七）

東京都 上野 章 子

【運営委員会便り】

P T A の広報は、広報委員会が発行する広報誌「矢車」と、運営委員会が出す「運営委員会便り」の二つから成っている。

「矢車」は、年三回、十万の予算が計上されていた。それにひきかえ、「運営委員会便り」は一円の予算もなく、会の都度書記と専門委員が、当番制で割り切りをした。この「便り」は速報性があり、きめこまかく P T A のようすを一般会員に伝えていた。これに印刷費が出されないのはおかしいということになり、第七号の時、タイプ印刷して出してみた。経費三千円である。これが、かなり好評だったので次年度に検討してもらうことが決まった。（現在も毎号タイプ印刷の運営委員会便りが出されている。）第一回の運営委員会は、司会も、記録も、「便り」の印刷も、全部役員がやったが、第二回目から、記録は一応書記もとつたが、司会、「便り」の原稿づくり、印刷は学年毎の当番とした。このやり方は専門委員に、運営委員としての自覚を促す力になったようだ。役員は、当番の自主性を重んじようと、原稿のチェックは申出なかった。ある時、決議事項が全く主旨とはずれた記事に出されてしまった。次の運営委員会でその訂正をした。ある先生は、「これは、会長責任で出すのだから、会長が事前に眼を通すのは当然の事だ」といわれたが、こちらから、圧力をかけるような感じではないのは、どうしても

いやだったので、役員達と相談の結果、書記の書いたノートを会長か、副会長がチェックし、そのノートを当番に渡し、それを参考にして「便り」を作成してもらうことにした。

こんなことがあつてから、役員に「便り」の原稿をもつてくるようになった。専門委員会で、彼らがそのように決めたようであり、それ以後、慣例になった。

「運営委員会便り」は各学年、個性を出して、毎月配布されている。ちなみに、第七号をご紹介しよう。（次頁掲載）

【学年活動】

会則改正の骨子となるこの活動は、最初から順調にいったとはいえなかった。学年で自由に活動してください。ただし、予算は飲食費としては使つては困ります。ということだったので、「そうめん流し」を食べに行く計画をたてられて、あわて、取り消しを願つたり、安直に先生を頼り、母親の映画会に授業を放棄した先生が、映写技師になつたりの、おそまつをしでかした。しかし、立派な活動をして成果を取めた学年もある。

たとえば、

○ 読書の動機づけ指導―読書推進協議会後援

○ 金沢嘉市氏講演会

○ 当用漢字勉強会

○ 親子ドッチボール大会

○ 学年誌発行

○ 学級回らんノート

○ 歴史の勉強と史蹟の見学

運営委員会だより

47. 1

第7号 永福小学校 P T A

第7回運営委員会は1月13日(木)1時30分～5時までP T A室で開かれました。

出席者、学級専門委員18名、役員5名、先生2名、計25名と校長先生がご参加くださいました。

審議事項

1. 会則審議委員会(正式名)より
(ア) 委員長 中名生 登美子さん
(イ) 中間報告として
「役員並びに会計監査・選挙規定改正のための問題点」
① 今年度は現行の選挙規定で行ないます。
② 選挙規定第2章第3条及び第4条の「委員経験者の中から推薦者を出す」という点について。
(a) 委員経験者という枠のおかれた理由
P T A活動に全く関係のない人が役員になってP T A活動を利用するのを防ぐため。
(b) 改正したい理由
③ 任期为1年になったため前記のような心配はないのか。
④ また学級の委員の数が少なくなったため特に低学年では委員経験者が少なくて困る。
⑤ その他、交通の安全、遊び場の確保、地区とのつながりを持つ為に校外担当の委員会を持つべきか、質疑応答あり。
2. 給食費、P T A会費、諸費の集金方法について
(ア) 給食費は学校からの振込用紙で払込む。
(イ) P T A会費は、P T Aからの振込用紙により、1年払、2期払、3期払、各自の都合で払込む。
(ウ) 積立金等は、各学年で処理する。
(イ)の採決次回。

3. 下高井戸グランド使用について
別紙お知らせの通りよく読みになってご利用ください。
4. 傘・図書について
(ア) 傘の破損がひどく、悪戯でこわしたような傘もありますが、最近子ども達が物を粗末に扱う傾向がつよいので、お母様方もよく注意してください。
(イ) 図書費に余裕があります。欲しい本をどしどしご注文ください。

決議事項

1. 年度末学級P T A懇親会費として、今年度は各学級に2,000円茶葉代が出ることになりました。ふだんおいてにれない方もぜひご出席ください。
2. 運営委員会だより第7号をテストケースとして、タイプ印刷を試みることにしました。読みやすさはいかがでしょう。ご意見をおきかせください。

報告事項

1. 学校からの報告
(ア) 3学期から校時表を変更して、40分授業にして、これによって、生みだされた時間は、
① 学級の自主活動 ② 係活動 ③ クラブ活動
④ 担任との話し合い ⑤ 遊び ⑥ 個別指導等に使いたい。
(イ) 3学期は特に行事はなく、2月に社会科見学があります。
2. 交通事故のこと
4年小峰豊佳君、下校途中青信号で渡ったのに永福町駅交番の前で、右折車にはねられ、一時重症と思われたが、カバン等が持てず未だ通院中とのこと。
③ 横断は右みて、左みて、もう一度右をみよう！
3. 信号機設置について
(ア) 6年委員調査の結果、永福薬局前の事故10件(1年間)
(イ) 高井戸署に請願書提出。場所料可能性うすい。
4. 校舎改築促進状況について
区議の方、校長先生、役員が区役所に陳情に行き、来年度項には順番が廻ってくるもようです。
5. P T A運営委員会からの報告
富栄学園・委員会の今後の活動等を審議されました。
6. たこあげ大会
(ア) 参加者 約300名
③ 当日、風がひどかったため思うようにマコが上がらなかったが、大勢の参加を得、青空の元で久しぶりののびのびした気分を味わいました。係のお母様お手伝いありがとうございました。
7. 学年の自主活動
5年 2月7日 映写会「親の期待、子の心」「うちの子に限って」皆裸せびど覧ください。
4年 「子どもについての座談会」準備中
1年 1月28(金) 金沢嘉市先生講演会2時～4時まで。ぜひ大勢の方、ご参加ください。
8(ア) カセットテープレコーダーを購入しました。
金額2,600円(本体1,950円、テープ3本 2,100円)
(イ) ベルマークを2月後半に集める予定です。続けてあつめてください。
9. 映画会へのご招待 (向陽中学より)
「水俣」1月25日(火)午後1～4時 向陽中学体育館
一年専門委員

迷いながらも、結構楽しくPTA活動が行われたと思う。ただ気になることは、PTAアレルギーで、余り参加しながらないお母さんのいることである。この問題を解決する唯一の方法は、一部のお母さんがPTAを牛耳らないで、交代で係を引き受けてもらって、その主体性をもつ喜びを味わってもらう以外にないと思う。係を引き受けると自然その方へ眼も関心も向くものである。今年の広報委員会にも「広報誌が配られたら、眼を通さずゴミ箱に捨ててしまうので、何も知らない」といった会員がいたそうで、そういう人がどしどし参加されるのがよいのではないだろうか。

【同好会】

PTA活動のタテ軸になった同好会は、四月早々に、今までもあった野球、バレーボール、卓球が発足した。これに負けじと、七月に読書会、句会、九月に園芸同好会、山歩きの会が出来、それぞれ、活発に活動しはじめた。

私も新しく出来た「句会」と「読書会」に加入した。

○句会（風蘭と名付ける）

若葉の同人、大場美夜子先生をおむかえして七名から発足した。既成の同好会に対して、新風を吹き込もうとしたのだが、人数が少なくて困るというので参加した。小さい時から文学的才能がないのにコンプレックスをもっていたのが、ピンチヒッターで句会の仲間になってしまった。だから最初は、先生も首をかしげる珍作が続出した。

梅雨晴や枝切る音す竿たわわ

先生に「どういう意味ですか」と問われ「梅雨晴で植木職が植木の手入れをしているし、私は洗濯物を竿いっぱい干しているところですよ」と答えた。

「俳句はあまり欲ばってはいけません」と先生は

梅雨晴や枝切る音すしきりなり

と添削してくださった。参考までに、私と先生になおしていただいた句がどのくらいいちがうか、おめにかかけよう。

私 遠き灯の上下に変わる夏の旅

師 夏旅の車窓に遠灯上下して

私 背を灼いて子等奇声あぐ荷負う母

師 荷負う毎灼けたる背の痛みけり

私 とまと売る訛りも床し朝の市

師 とまと売る言葉なまりも朝の市

私 秋の夜や夫と黙して憩いけり

師 秋の夜や黙せる夫に侍り居て

この最後の添削句には少しひっかかるような気がして、「先生侍るんですか。本当に侍らなければいけないんですか」などと冗談をいった。外野から「その夫は妻という字に書き直した方がいいのじゃあない」と茶々が入ったので、私もすかさず、

「この句会の仲間達は、どの顔みても侍るような顔をしていま

せんよ」などとやりかえし、大笑いした。

句会に参加してから早や二年以上になり、この春、句会のお仲間のお子さんが卒業するので、この機会に皆の合同句集を出そうという事になり、三十頁程の「風蘭」第一号ができた。私も五十句のせてもらった。俳句の面白さがわかりかけてきて、病、膏盲に入りそうである。この句集の中から、少し転載してみる。

鱗雲

上野章子

母と子の掌の温もりよ鱗雲

あられだけいつしか失せぬ雛の段

天皇の欠伸の写真春炬燵

岩清水襖の如く触れゆきぬ

駅弁に賀正と刷られ帰郷かな

(誌面の都合で以下の俳句を略させて頂きました——編集部)

はじめて句集を出して、とてもうれしかった。今年度は句会にも七名程二期生が入り、初歩からの指導をうけることになった。土芳の芭蕉随聞記「三冊子」に「高く心を悟りて俗に帰るべし」と「誠の俳諧」を説いているが、これは、まさに人生への至言ともとれる名言だと思う。俳句により人生を知り、自然を知った。PTAとは「すばらしきかな」である。

クラス会

鎌倉市 野口良子

集まったのは幸せな人達ばかり
男が五人、女が十人。

昔のことは忘れたように
誰も語りたがらない。

劣等生の集まりだから
想い出として笑うには、

皆、少し若すぎる。

事業の自慢に会社の自慢

果ては子供や家までも。

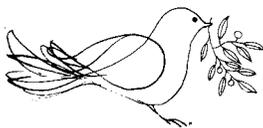
幸せを精一つばいまきちらし

云うだけ云って、ふと、白らけ

男は五人連れだつて街へ。

女は空なしさを抱いたまま

星夜を家路に急いだ。



私の結婚観

大阪府 土井邦子

テレビで婚前交渉は是か非かという討論をしている。若者達と主婦達の対立で、何げなく見ている内、自分が若者の側に立っているのに気付いた。同じ主婦同士なのに、さかんに若者を不潔呼ばわりしている人に、反発している。何が何でも認めないという人、必らず近々、結婚するのなら良いという人もいて、実にこっけいな風景だ。彼等のいう結婚は男女の結びつきそのものであり、彼女達のいうのはあくまで婚姻届けが結婚なのだ。

「多勢の客を招いて華やかな式をあげ、今日からこの二人が性的結合をおこないますと発表して、賑やかに新婚の旅に出ていく。あの形式こそこっけいなものではないだろうか。性の儀式は二人きりでひそかに充実した愛の心だけでおこなわれる方が、私には奥ゆかしいもののように思われる。」最近読んだ石川達三の小説の中の文だが、私の気持そのものなので書き写した。今の若者の意見もそういうことなのだろう。結婚という順序を踏まなければ、どんなに愛情の伴った結びつきも不潔だなんて、言い切れる理由がどこにあるか。私も平凡な結婚をし、幸か不幸か、婚前交渉というものもなかったが、それは偶然そうだっただけのことだと思う。そして今、ここにいる彼女等だってそうじゃないだろうか。

大体、婚姻届けを問題にしていないう若者達とこんな討論をす

るのが、ナンセンスというのかも知れない。この主婦の中に、自分も含めて、自由な感覚の若者に対する嫉妬心をみた。レールの上の残された人生、一生にただ一人の男性と関わりを持つただけのつまらなさもあるのじゃないか。

私は自分の子供達に幸せな結婚をして欲しいと勿論思うが、その為にも、多勢の人間と接して、一度の人生を豊かなものにしてもらいたい。だから娘が、学校を出て、花嫁修行とやらをして相手を待っているだけの娘にだけはなつてほしくない。自分の生き方を探し求めていく過程で傷つく事があつても、それを踏み台にしてジャンプできる位の娘や息子になつてほしい。そんな時、私も世間の目を気にして、おろおろする様な母親には、なりたくない。

いつの間にか子供への、希望みたいになつてしまつたが、私の言いたいのには婚姻届けが、後でも、先でも良いじゃないかという事である。立派な式をあげても子供を捨てる親もあれば、未婚の母でもちゃんと育てあげる親もいるという事である。

入学して一カ月

神戸市 平田恵美子

うちの長女もやつとことし小学校に入学しました。きょうこの頃、思うことなど書きました。

保育園の延長のようなつもりで入学した潤子が、半月程して「おかあさん、先生つたら、わたしの名前、まだ覚えてない

らしいわ。一べんも平田さんとか、じゅん子ちゃんとか言うてくれへんもん。あんた、あんたばっかり呼ぶで。」

と、さも不平そうに話していたことがあります。その時、いつか保育園長さんが、新学期には先ず園児全員の名前を早く覚え、〇〇ちゃんと声をかけることを第一の仕事にしていると話しておられたことを思い出しました。なるほど、こどもの心をよくつかんでおられたと、今更のように感心しています。いえ、わたしだって、「奥さん」と呼ばれるより「平田さん」と言うてもらう方が嬉しいですよ。

それにしても、娘の保育園生活は、すばらしく楽しかったようです。三年前、入園第一日から、三時までの保育とは、少々かわいそうに思いましたし、子どもも「おかあさん帰ったらいや。」と、コートの裾を引つ張って泣きました。それが、年長組になると、時間きつちに迎えに行くわたしには不満で、結局、近所の小さいこどもだけ連れて帰ったことも何回ありました。その保育園は、家から徒歩十五分位の所にある私立のもので、当時は、四クラス百余名の園児と、先生六名、給食係のおばあさん一名という設備など充分とは言えませんが、園の規模としては適当だったと思います。六名の先生がみんな自分の先生であり、大きい子も小さい子もみんな自分の友達なのです。わたしも、十日市さんが書いておられたように、親と子が別の世界で生活する時間が必要であること、子どもはその間大勢の友達と遊べるのが第一で、保育内容はあとの問題だったのです。先生方の保育方針も子ども達中心に向けられていたことも幸いでした。卒園式を例にしても、近くにあるK幼稚園では、毎日

続く式の練習、当日の先生の羽織、袴姿、園児の君が代斉唱と、いうのに比べ、毎日歌った懐かしい歌を四月から月を追って歌い、どんな生活をしてきたかを子どもたちが、みんなに報告してくれると言った素朴で、なごやかなものでした。

今、小学校へ通うようになり、見違えるほど朗らかに積極的になった娘を見て、この三年間の保育園生活が土台になっているのだと喜んでいきます。

ようやく友だちとも慣れ、名前や顔も覚えた五月上旬、級友も、先生も、教室も、また新たに変わってしまいました。どの親も同じでしょう。わたしもびつくりしました。一学級ふえたのです。もともと七学級になるべきが、教室がないため六学級に縮小して出発した新学期なのに、二年生が一学級減るので、一年生を一つ増したというわけなのです。学校側としても、やっと学級経営も軌道にのり出した頃に大変迷惑なことでしょう。移動の多い時期とは言え、全体からみてわずかなものですし、毎年問題にあげられながら、未だに県が五月一日現在の児童数をもつて学級編成の認可をしているのはどんなものでしょうか。

表紙絵の言葉

鈴木 芳子

華やかなカトレアから道端の犬ふぐりの花まで、どれが一番好き？と聞かれても答えられないほど花にはそれぞれの美しさ、型のおもしろさがあります。長雨のいやな季節、唯一のすくいは雨にぬれた紫陽花でしょうか。字の感じと言い、空色の花のなんとも言えぬやさしさ、美しさ。私の大好きな花の一つです。

随感

箕面市 後藤美和子

●PTA活用

新学期と共に又ぞろ話題にのぼるのが、PTA問題ですね。わたしは、過去の経験から、PTAには今後、金輪際かわかりあいは持たないつもりですけど、利用できることに利用しようと思つて決めたのです。

先ずは、読みたい本の提供機関だと決めました次第。利用者が多かろうがなかろうが、学校もしくはPTAの面目からか、年間数万円の図書購入費が計上されることはいずれも同じでしょう。本代にも事欠く主婦業の身の上にとっては、ありがたいPTAの図書委員会サマである。ところがです。放つておいたら、どんなことになるか。

「九才までには、ここまでしつけましょう」「夫にあきらめなないための○○章」「愛情深い母親とは」「教師と母親が手をつなぐためには」ETC。

ズラリと並んでいるものは、ハウ・ツーものばかりとなりかねないのです。これでは貴重なPTA予算が泣こうというもの。この種の本を読んで、一気呵成に賢くなるお母さん達も、いらつしやることは事実ですけど、かといって、この種の本では、胸の底にちっともやきついてはくれないし、頭の中の細胞だって、分裂はおこしても新生はしないのじゃないかしら。こんな

本ばかりが、これみよがしに並んでいる書棚を見ると「もったいない」と思つてしまふわけです。そこで一計、図書委員会に前期・後期のはじめに、自分がいつかは読みたい本、今すぐにも買つて欲しい本と二段構えの印をつけて、購入依頼票を出してみました。おっかなびっくりで出しましたところ、意外や意外、向うさんも大いによりこんで下さつて、「どんな本買つてよいやら迷つていました。助かりましたわ、これで今期分の二万円、丁度使いきつてしまえそうですわ。ありがたいわ、こんごもどうぞよろしくお願いします。」ウツシシの心境です。

●幼稚園は、入れてからが肝心。

どんな幼稚園を選んだらよいか、なんてむしろ滑稽です。えり好みする程、上等の幼稚園が、それ程たくさんあるかしら。婦人雑誌などで「よい幼稚園とは」と特集しているけれど、そこに書いてある条件をみたし得る園など全国で幾つあるだろう。親がこんなところに入れたいと思つたとしてもそんな理想の園否理想に近しいところさえないのではないかしら。親たちは皆あきらめて入れているのだと思う。理想的幼稚園が実在しないのだから、これは仕方がない。だからあきらめて入れたらいいと思う。ただし、入つたからには、子どもを預けたからには、預け主の発言権をフルに活用し、園側の言い分をごむりごもつともと、全てをあきらめてはいけないと思う。たとえ相手が神に仕える崇高なお方であっても、いふべきことはいわなくてはいけないと思う。神罰など怖れることはない。

我家の二人の息子は、カトリック系の私立に入った。どこと

つても五十歩百歩で、親類と仲人さんのすすめをうけて入れた。不甲斐ないことであるけれど、それを押しつける程の魅力的な園が他になかったのである。息子たちを通わせている間、一日だって、「よい幼稚園に入れた」と心底思ったことはない。実にツマラナイ、ウンザマイ思いばかりした。救いは一つ、子どもが集団で遊べることであり、たのしもうに出かけていくこと丈である。子どもの友だちはそれぞれ多く持てたしよかったと思うけど、その子どもたちの母親の顔がくっついて出てくると、イヤ～な気分にはさせられた。(少しの例外を除いて)

この園は、通園靴が革靴であること、制服の中にオーバークー トまで含まれていることに象徴されるように、園長(シスター)の口先でいう質素という言葉とは、ウラハラに、この園をとりに巻く雰囲気は、華美と奢侈におおわれていた。入園させるに当って、そこがもっとも気に入らなかつたのであるけれど、そこは又その反作用というのか、敷地は広く、環境良好、施設充実、地方都市の中では抜群だった。そこが最大の魅力だったわけで、他に嫉がきびしいから行儀のよい子になるとか、雑音的にいろんなことも入ってきたけど、しつけとか教育とか、幼稚園に、学校にわたしは期待していないからそんなことはどうでもよかった。広いところで、明るく、気持よく子どもが遊んでくればよかつたから、そこを選んだ。

入園式の日、華美と奢侈におおわれた中で、黒布をかぶつた園長が園の方針をどくとどと語るのを聞きながら、わたしはひそかに、園に対する我家の方針を打ちたてていたのである。このことは、これから幼稚園に入る子どもさんを持つ、若いお母

さんたちには是非おすすめた。園の方針ばかりを一方的にきくのではなく、園に向って、我家の、自分たち母子の方針をも、必要に応じては、断固として提示する心構えを持つこと。

通園靴が革であることが納得できなかった。子どもに革靴をはかせるのは、親のみえ以外のなものでもないわたしは考えていたから。入園前に一揃いとして買わされた革靴が、もの三カ月もたたない内に型くずれして見るも無残になった時、園長に手紙を書いた。「うちではビニールの黒をはかせますから、どうぞよろしく。」園長は、「本当はね、ムニヤムニヤ」

と猫なで声で説明してくれたけど納得させられる理由は一つも含まれていないと判断して、聞き流した。一方、集団の中にいて統制を乱すことを小さい子どもまで巻き込んでさせることを、周囲のあらゆる立場の人から、直接に或は婉曲にさとされたけれど、自分のやっていることの方が正当だと、きめたからには断固としてその意志を通すことは、小さい時からこそ、体にしみこませておきたいと思つたから、子どもには訳を話して、ビニールをはかせた。ぬれても、汚れても、型くずれしても余り小言を言われなくてすんだだけ、子どもも得したのじゃないかしら。長男の場合、左利きである。先生の中には、一日も早く治した方がと、うるさい位いう人もいたけれど、わたしは「彼のもつ、最大の独自性として認めてやって欲しい」とバックアップしてきたつもりである。幼児に対してよく使われる言葉に、「みんな仲よく、みんな一緒に」という類のものが多くけれど、「みんな仲よく、みんな一緒に」は好きだけど「みんな一緒に」は、わたしは余り歓迎できない。一緒に、の中に「同じことをしよう」の精

【お便り】

大阪府 土井 邦子

神が入りすぎているからである。大人はくらしの中で必要にせまられて、人とちぐはぐのことをたった一人でするはめになる場合も多々あるけれど、幼児達には、わざわざでも親がそういう機会を作ってやる必要さへ感じます。その点、左利きの子など願ってもない利点を持っていると思います。

とんだ方に筆がすべってしまつて長くなつたけれど、息子らの通つた園の方針がわたしにとつて、どの位、心に染まなかつたかの決定打を一つ、最後に読んで頂きたい。

卒園式の日、園長や保護者会長が型通りの挨拶に立つて、

「よい子のみなさん、今日はご卒園おめでとうございます。」とそこまで云うと、間髪を入れず、園児たち打ち揃つて、「ありがとうございました。」と答えたものである。この時の背筋に走つた悪感は今なお忘れ難い。純真無垢な幼児たちを、よくもむざむざと教育してくれたものだと、憤りが走つた。その時の周囲に居並ぶ黒紋付きの母親たちの反応はどんなものだったと、ご想像できますか。「しらけきつたのでしよう」とお思いですか。それが否、「まあ、かわいらしい。先生方も大変よね。これ丈にしつて下さつてね。」幼稚園がしてくれる幼児教育のお粗末さ、これに毒される母親連合の愚かしさ！

幼稚園とは、入る前に、どこにしようかといつて頭を悩ますところではありません。入つてから出るまで、園の方針を取捨選択しながら、我家の幼児を人間らしく伸すことに頭を悩ますところです。

(特に私立の場合は、孤軍奮斗の覚悟がいります。私立は集団は頼めません。すぐお金で解決したがる人が多すぎるから。)

私の不安に早速おたえ下さつて有難うございました。

入園して一カ月たち、娘は喜んで行っています。長男が行くとすれば、一年保育ですのまだ二年先で、その時長女は二年生になります。小学校と幼稚園は、同じ敷地内にあり、いろいろ連絡が行き届いていて、便利だし、同じ所へ行く方が私も安心だし、子供も近所のお兄ちゃんを運動場で見かけた時なんか、とてもうれしいらしいのです。学校の方へ見学に行つたりして、この調子だと、入学時も不安がらずに、自然に新入生になれそうです。長男と同じ年の男の子が近所に六、七人もいるのですが、皆さん来年から私立へ行くと聞き、遊び友達が行つてしまふと淋しがるかもしれません、二男も、そろそろ遊び相手になれると思います。

入園式の時、園長さんのお祝いのことばを聞き、思いがけず涙がこぼれ、こんなセンチな所があつたのかと自分でも不思議でした。

相変らず近所には、制服からカバン、遠足の行く先まで比較してうるさい人もいますが、気にしないことにしました。



★表紙絵を募集しています。絵の種類、年令は問いません。どうぞお寄せ下さい。



御神籤、外

枚方市 重川 雄

一、
毎年、年始の四日は吉例によって、二人の友人と示し合せ、香里の成田不動尊に詣でることになっている。

どうしたのか、今年は、電話の連絡がとれず、打合せの機を失ってしまったて、永年続いたこの行事も、遂に行なうことが出来なくなった。

一寸淋しい気もするので、何とか方法はないものかと思案の結果、幸にお正月だと言うので東京から娘夫婦が帰っている、それを誘ってみることにしたところ、案外容易に同行しようと言うことになった。

例年の行事とは、年一回親睦を兼ねて行なう筈のものであるから、こうしたものが、故障が起きると、何かしら一抹の淋しさと言うようなものが感じられる。目的は神詣りと言うものだから、一人で行つてもよいようなものではあるが、矢張り一寸物足りないものがある。

この神詣りには、つきものとされている、また、多くの人々が、やるように、私共もお神籤を引く。それが仮令吉であつても、凶であつても、生活に直接どう響くかと言うものではあるまいけれど、一応の気休めとしてやってみる人が多いようだ。そして書いてある文面が、楽しいものもあれば、悲しいような

ものも出て来る。其処が面白いところであらう。

若し凶と出れば、更にもう一度引き直せばよいと言うことになるのだから、何でもない。吉が出るまでやればよい訳だ。

併し、初めから大吉とでも出ようものなら、其処で受ける快感と言うものは、又格別なるものがある。それは神様が、自分の一生を祝福して呉れて御座るに相違ないからだ、自分で解釈したくなるからである。幾万人の人が引くこのお神籤に、いちいち、神様も人選をして送り出している紙片ではあるまいけれど、それを言ってしまったては、面白くない。矢張り楽しい気分でありたいものである。

妙なもので、この一片の紙切れの後ろには、神様が控えて御座るのだと思うところに値がある訳で、これを仮に何々会社から宣伝用神籤として下付され、貴君の今年の運勢は素張らしいものがある、などと告げられても、それはちつとも有難いものだとは受け取れない。

兎角、目に見えるものは、余り美しくないが、見えないものに対しては、なつかしく崇高な感じの湧くものである。

恰度生きている時代の親は、きびしい恐いようなものであつても、死んでしまつてから思い出すと、実になつかしい人に見える。二、
二、

もともと、私の信条としては、「神は敬うべきもの、頼るべきに非ず」としたものであるが、お神籤の文面がよかつたからと言つて喜んでゐるようでは、流石に心の片隅には、常に神に對する敬虔の念はひそんでゐるものであることが、見すかされ

る。

恰度、私の引いたお神籤は大吉とある。折角大吉と書いてあるものに對して、こんなものは信じないのだと頑張る程、根性は曲つていない。矢張り一寸明るい気分が湧いて来るのだ。

其の文面と言うのは、こう言うものであった。

一信向天飛——これ丈では、一向に解らない。一寸解釈を覗いて見ると、ただ一しんの信があれば、其の誠の心天に通じ立身出世すべし。

秦川舟自帰——秦川の舟は綾錦を積むなり天の幸を得て舟に宝を積みて帰る心なり。

前途成好事——行く末おいおいよきことが続き望みごと皆叶うなり。

応得賞人推——高位の人に目をかけられ幸福思うまなるべし、推とは力をそなえるなり。

何か解つたようで、解らない気もするが、大体から見て、よいことのようなのである。私はどうやら出世するらしいが、最早や冥土は目前に迫っているのだから、余り期待は持てまいけれど、ここで私の信條は生きて来る。敬するが故に尊い、但しそれに甘えて利益を求めようと言うようなものでは決してない。この偉大なる後押しがあるとすれば、一奮発、大いなる發展的努力をかけてみようかと言う気になる、其処にお神籤がお神籤としての意義が生じて来るのであろう。

今年の君の運勢は展けているから仮令遊んでいても大丈夫だと言うような「神」のお告げであるなれば、物にならない。

人間は働くことによつて伸びる。働くことによつて更に健康

に恵まれる。其の健康が基となつて働くことが出来ると言う、この輪廻こそが、尊いのだ、神を敬する心の基盤は、其の辺に胚胎するものでなくてはならないと、考える。

三、

一年程前から、私の妻は胃下垂を患つて、殆どの日、医者の方介になつていた。

其の原因は何処から来ているのか、解らない。これを称して年齢から来る一つの病氣だと言うことに、私共は結論づけていたのだが、当の本人は、それでは納得しない。何等かの原因がなくてはならないと言う。

それには三つの大きな理由が考え出されている。そんなことは、まるで考慮に入れてはいないのだけれど、弱味の伴つた病人としては、氣懸りになるのも、また、止むを得ない。

其の一つ——

私の家は、先代から通算すると、確かに百年以上を経ている。其の設備形式は、農家によく見たことのある、炊事場が案内外広く畳で言へば十二畳分位の土間になつてゐる。其処にデンと控えているのが、漆喰造りの竈さん。これが動作の邪魔をして困ると言うことになつてゐた。私の子供の頃にはよくこのへっついさんの前に坐つて、炊事の手伝いをさせられたものであったが、昨今は電化によつて殆ど、このへっついさんの厄介になるようなことはない。其のために、今では厄介物とされてゐたものであるが、それを取除くことを、妻は提唱してゐたけれど、私はそうした力仕事は、性に合わないからと言うことで放置してあつた。ところが、ある夕刻帰宅してみると、跡形もなく、

失くっていた。

十月の神無月を選んだのだと言う。神様のお留守を狙った訳である。取ってしまったえば広くてよい。私は其の後へ色々な雑品を羅列した。併し、私の心奥には、こんな無茶なことをしてよいのか——と言う気持が去らない。「神」と言うものはない、それは人間自身の心の中に在るものだ——などと主張して来た私には、一言の不平も言う余地はない訳だが、一寸不気味なものがあった。

四、

この場合、私の考えるのは、神罰を言うよりは、女性としてへ、ツツイさんを取毀すと言うような労務に對して、体力的なる反動が起りはすまいかと言うところにあつたが、案の定、妻の病氣は、其の辺から兆が見えて来た。

其の二つ——

暑い夏の太陽を避けるために、私の庭に直径二十センチ程のアカシヤの木が三本植えてある。風でも吹くと葉をサラサラと揺つて如何にも涼しそうに見える。併しこの木は毎年枝を切り揃えなくてはならない。枝の成長が物凄く早いからである。冬の初め落葉期が来ると、毎年この枝を二メートルは切り落とす。サラリーマンの女房と言うものは、しかも子供の世話から解放されたような年齢になると、至つて暇だ。この暇を何かに役立てようとしてもしたのであろう、方位からすると、鬼門と言う位置にある一本に梯子をかけて、相当太い部分から切り落とすってしまったと言うもの。

もともと、鬼門とは、辞書によると、悪鬼の出入りするとこ

ろであつて、人はこの方向に向かつては、物事は避けるべきであると言つてある。

其の三つ——

現在使っている畑の一部は、もともと葦が生い茂つていた。蛇も居たろうし、まむしも居た筈だ。色々な小動物が混棲していたことは、確かであつた。其の葦原を、三日も費やして開墾してしまつて、今では綺麗に花畑となつてゐる。

其の時、この葦原に、「お狸さん」と言う神様が棲んで在し
たと言うことは、解らなかつたのが、何よりの不覚。

この三つのことに対して、弱味から来た妻の立場では、只、悪いことをしてしまつた、何卒神様赦して下さいと言つてこめて、毎夕線香を立てて、暫時陳謝の姿を續けていた。

其の行状を見て、私は、啜つてよいのか、差止めてよいのか、薩張り解らない。

併し、この努力に對しても、病狀は一向に好転しない。

そんなとき、田舎の友人が訪れて来て、

「それは確かに何かの祟りだ、一辺私が最寄りの、おがみ屋に伺つてみてやる」と言うことになつた。

今の世に、こうした話は、私には何か夢の中を歩かされてい
るような按配ではあつたが、其のまま聞き流しておいたところ、
数日の後、其の男は来た。

「君の女房は、大変な悪いことを重ねて来た。お狸さんの棲
家を潰したり、餌を拾いに廻つてゐると、何辺も足蹴にかけた
りした、憎みても余りある女だと思つてゐる——」

と言つて、お狸さんは大変なご立腹である、と言つのである。

「それでは、どうしたら勘忍して貰えるのですか」と、妻は訊ねる。

「それには、人參と、大根と、小芋と三個宛を、氏神様の横に在る小さな祠、其処に棲家を求めて住んでゐるから、其処へお供へして呉れば、赦してやる——」とのことであつた。

其の男の言うままに、それらの品を買集めて、早速氏神様の横にある小さな祠へお供をすませ、其の足で、幸にも空室があつたので、K病院へと入院した。

其の後四五日——。

病院から電話が来て、「何処も悪い処はないと主治医さんが仰言るから、明日退院します」と、言う通知である。

また、夢の中を歩いているようだったが、次の日、現実として、娘と連れ立って、元気に談笑しながら帰って来た妻の姿に接すると、これが過去一カ年、蒼い顔をしていた女房の顔とは思えない。こうして妻は完全に健康を取戻してしまつた。

こうした現実に接して、私は、医学と、神靈との、いずれに謝意を表してよいか、判断のつけようがない。

会計報告

(5月末日)

前月くりこし	円	45,108
収入		18,680
支出		
印刷代		25,000
発送費		6,055
差引残高		32,733

再び渡辺様へ

東京都 照井陽子

御理解頂くことが出来て、こんな嬉しいことはありません。私の言わんとすることを、あの時点までお考え下さつたことにとても感謝しています。きつと、塾を聞いておられたから、何人ものお子さんを教えていらつしやつたから、私のやりきれない気持ちを感じていただけたのではないのでしょうか。

編集部のみなさまが、『待望のオール5』にキョトンとされた様子も実によくわかります。

親も子もそれが望みだつたわけではなく、低学年の子供が、自分の勉強の目標の一つだつたに過ぎないからです。

それは、お友達と通信簿のみせっこをして、自分には『5』がなく友達に、『5』があつた方がいいんだよと、みせびらかされたのがきっかけらしいのですが、その子が、たま／＼何でも知つていて、子供の目から見たら、すごく偉く感じられたからでしょう。

わたしにも『5』が沢山あるといいと言ひ出したのです。ちやうど素晴らしいおもちゃでも欲しがるように。

「そんなに『5』が欲しい？ そんならそうなりたいと思うとされるわよ」とまあ、その時は軽く考えていました。

そのうち、子供に意欲が出てきたのです。子供自身の目標がはっきりしたためでしょうか。

私は心の中で、学校の勉強なんて枝葉のことばかりで、くだらん、なっていない、オール5なんてナンセンスよと思い、危うく口に出かかったのですが、待てよ——、ここでナンセンスといたら、子供のせつかくの目標がなくなる。高学年になれば少しは本當の勉強とは何かがわかるにちがいない。その時に何のための勉強かを話合ってみてもいいではないかと考えたわけですが、それにしても、遅いということ、これほど差別を受けなければならぬとは思ってもいませんでしたし、小学校の勉強が、そこまでなりさがっていると露程も疑いませんでした。

そこで私は、遅いということの本質は何なのか、先生がいうように、本當に能力の差なのか、とことん首をつっこんでみたりになりました。心理学の本を読んだり、研究データを調べたり、その道の学者の話を聞いたり、何しろ自分でも気がつかぬうちものすごい意欲を燃やしていたことが、ずーっと後になってわかりました。それも夫にこう言われたからです。

「自分では弱気で駄目な人間だと思っているようだが、おれにも弱音を吐かないんだから、強くなったよ。子供を持つと女は強くなるもんだね。まあ寝込むようなことだけはしないでくれ」と。

テストの点数に、こだわらないのが、彼女のいいところというべきで、そのおらかな性質があったから、自分はなぜ勉強するのか、徐々に枝葉のことではなく、大本に気がついていったのだと思えます。

待望のオール5とは、彼女の一つの約束ごとに過ぎませんで

した。

今の教育は、母親達の応急手当では、底がしれています。全国のPTAが教育権について考えるようになったら、どんなに大きな力となることでしょう。中学校のPTA会長をひきうけて、母親達が少しでも目覚めてくれたら、と期待しています。が、「わいふ」の会員のようにはまいません。理解しようとするより、相手のミスばかりつくことに専念しているような会員に、情なくなったり、それでもひとりでふたりの、はげましの言葉に勇気を出したり、この一年間は、きつといい人生勉強になるだろうと、そのことの方がウェイトを占めています。渡辺様、くれぐれも無理なさいませぬよう、私もじつくりと腰をすえてやっていくつもりです。PTAを通して私なりに教育をみつめ、自分の子供達が次代を担う目を持てるような大人になることを願っています。

五月記

お便り

枚方市 藤 浦 だ い

毎月確実に届けて下さる事に感謝しながらも、いつも、読み手専門であることを心苦しく思っております。今月こそは、何とかして私も原稿をと思いがながらも、雑用に追われ、それにもまして、皆様の文章を読ませて頂くと、つい気おくれがして書けぬままに、一カ月がすぎてしまいます。例会にも出席したいのですけれど、小さい子供がいますし、日曜日は、ガールスカウトのリーダーとして活動(?)していますので、それも不可能です。悪しからずお許し下さいます様に。

(編集部より) 地域活動としての、ガールスカウトの模様などおしらせ下さいませんか、それに例会にも是非一度、どうぞ。

母親が外で働くことについて

東京都 照井陽子

結婚してから今までずーっと、夫が私より先に死んだら、未亡人として、どんなにみじめな生活をしなければならぬだろうかと、いつも頭の片隅から離れていません。

何か手に職を持ち、自主的に仕事をしていった方が将来の不安もなく子供達も不幸にしないですむのではないかなどと考えたこともあります。子供が一才頃、お勤めしてみようかと思つたこともありましたが、友人のグループの一人の奥様の御主人が亡くなられ、その奥様は、もしもの時と思ひ、お店をやつとの思いで持つたとたんの御主人の死亡ということで、友人などは、主婦が無理して仕事を持つことも良し悪しねなどと言つていましたので、お勤めする気もなくなりました。

子供が小学校になり、今度こそそのチャンスをやうかがつたのはいいのですが、子供達や、夫から、外で働くのはお母さんには、無理だろうということでしたし、子供達は、小学校だけでは家においてほしい、そのかわり、中学校に入ったら、二人で考えてみるからというのです。とにかく中学校へ行つた二人から或る日、ピンクのカギの袋一つもらいました。

「お母さん、これから好きなこととしていいわよ。御飯は二人で作るから。私達カギを一つずつ持つことにしたので、これはお母さんの分よ。今までありがとう。」

なんのことはない、子供達と夫の相談した上でこの言葉を書いたら、外で働きたいと言つていたあれだけの理由は、どこかへふつとんでしまいました。子供と夫が私というものを認めてくれたことで、あれ程、主婦が外で働くことに意義を感じていたのに、逆に、夫がよりよく気持ちよく働けるように、子供達が、伸び／＼と勉強出来るように、私とその城を作つてやるという意欲が充ちてきたのは、自分でも不可解です。

このような不安定な時代に生きるためには、家族のそれぞれの自覚もさることながら、心の安住の場が不可欠なのではないかとふりかえっています。

叔母が50才過ぎて叔父に先だたれ、その折は、ずいぶん悲しみにあけられていましたが、或る日、私が主婦もいざという時のためと、時代の流れに取り残されないために、お勤めに出たいと相談しましたら、

「あなたが経済的理由や、自分の成長のためにお勤めするのは大変結構だけれど、夫婦というものの結びつきをもっと大事に考えなさい。お互いせつかく一緒になれたのだから、その有難さをもっと知らなければね。私みたいに一方がいなくなつてから、ああすればよかつた、こうすればよかつたでは間に合わない。先のことばかり考えて、自分の足元がぐらついていたんではどうかしらね。私は何も手に職はないけれど、それでも生きてはゆけますからね。生きようと思えば知恵も出てきますよ。」

これに対して現在お勤めして、ずいぶん高級取りになつていく友人は、

「夫婦っていうものをそんなに大事には考えたことないわ。私は経済的に恵まれてはいるけど、特別それが幸せだとは思っていない。若い時から働いているから当然のように自由に自分のためにお金を使っているわよ。存分に遊べるし、旅行も出来るしね。ただねえ、自分を客観的に眺めてみる余裕がないみたいなのが、どうもね。普通の主婦が、夫や子供のためにお料理作っている姿を見ると、いいなと思うし、だからといって、自分もそうしたいとは思わない。ま、定年まで頑張らなくっちゃね」

離婚した友人は、（お勧めしている）

「はじめは、さばさばしていいと思っていたのよ。でもねえ、主婦っていうのは、案外自分の幸せに気がついていないもんですよ。」

あれやこれや耳にする度、何が本当なのか、いいのか、さっぱりわからなくなってきました。家庭だけではなく、外とのつながりの中で、自分に適した仕事を続けられたら、そんな仕事が出来たらいいと思うのですが、先日、PTA会長仲間が、（息子さんが高校に入ったばかりの奥さんが）交通事故で御主人を失い、自分では考えてもいなかった職業につくことになったと話してくれ、家にいられる間は、それで幸せなんだからというのです。

母親が外で働くことについて

その六 昼寝ぐせを阻止するために

宝塚市 高木 由利子

私は、生来のなまけ者ではないかと、時々思うことがあります。おまけにととも昼寝好きなのです。夜によく夢を見るたちなので熟睡が出来ないのかも知れませんが。いつも睡眠に対する飢餓感みたいなものを感じています。

子供が三人生まれる間、丸四年というものの、普通の主婦なみに家に居たのですが、その間は子供と一緒によく昼寝したものでした。昼間眠るから夜はなかなか眠れない、いつまでも起きていてお腹も空くから何か食べる、要するに食べる事も不規則になって胃も悪くなるという具合。早起きの夫とは生活のリズムがかみあわないで困りました。

私は自分の健康の為に、外側から自分の生活を規制する必要を感じました。これも私が仕事を始めた理由の一つなのです。仕事をはじめてからはさすがに平日は昼寝は出来ません。午後の二時頃、たまたま眠くなって「あ、今昼寝出来たらどんなに仕合わせだろうな」と思う事も度々です。でもその楽しみは日曜までおあずけとなります。日曜は家族と外出する事も多いのですが、朝早く出て午後早く帰り、夕方昼寝しますそれが出来た週は、少々睡眠時間が足りなくても「今週は昼寝したから」と安心出来るのです。とにかく、昼間は仕事をし、夕方は家事をして、九時すぎからは自分の自由な時間という規則正しい生活は私の健康の為にとても良いようです。

家事はあまり好きではなく、食事の用意は自分も食べたい一心でなんとか作るのですが、後片づけはうんざりなのです。

でも、これも一つはなまけ者たる所以だと思うのですが、いかな事は如何にして早く能率的に片づけるかという点に頭をしぼり、サツサとすませます。

掃除もが手なのですが、これもあまり細部にまでこだわらない性格もあって、適当にきりあげるので、それほど苦になりません。前に掃除が重荷だという人がいて、さぞ汚れ放題の家だろうと思つて行つてみたら、台所はピカピカ、障子の棧にまで掃除機をかける徹底ぶり。こんなにまで神経をゆきとどかせていては、重荷にもなるだろうと思つたことがあります。完全主義者、潔癖すぎる人は、共働きは向かないのではないでしょう。私のような者ばかりではないでしょうけど、案外なまけ者で、何でも適当にごまかしてやつてしまう者には、共働きもあんまり苦にならないのです。

だから私はこの頃、割合誰でもが、外に出て働きたがるような風潮にある中で、ガンとして動ぜず、家庭の中にいる人を見ると、外から規制される事もなくなまけ放題に出来る環境にありながら、自分をきびしく律する事の出来る人なんだなあと、一種の尊敬の念みだいなものを感じてしまうのです。

私が仕事をはじめた理由には、ピンは、女性の自立は、経済的自立がなければ絵に画いたモチにすぎぬという様な、観念的なものから、キリは今書いた昼寝好きへの対策まで、色々あります。その色々なもの、この一つ一つ書いてみるのも面白いなと思ひました。

私と夫とは年が13違ひます。結婚したのは夫33才、私20才の

年です。夫は「結婚したからには、オレもそう若い方じゃないし、早く子供を作りたい」と言つたのですが、まだ在学中だった私は、大きなお腹で学校へ行くのはとてもじゃないがイヤだとなんばりまして、四年間ひきのばし戦術を実行しました。

そして夫37才、私24才の時に長男誕生。それから二年して双児の女兒誕生。それから計算すると、夫の停年を55才として、その時長男は18才、やつと高校を卒業したばかりです。私は大学こそ昼間行きましたが、高校は経済的事情から昼間働きながら定時制に四年通つたという経験の持主で、その頃どんなに全日制の高校へ行きたかつたか、それを家庭の事情で行けなかつたくやしさをみたいなものが、今でもしこりみたいに残っている。もし息子がその時になって、経済的事情から行きたい大学へ行けなかつたら、どんなに辛いだろうなと想像したので。夫の停年までに息子が大学を卒業出来なばいのは、私が大きなお腹で学校へ行くのは恰好が悪いという見栄の為に出産を引きのばしたせいなのです。これはすべて私の責任です。それで将来子供たちの面倒は私が見なければならぬという義務感みたいなものを感じていました。どうせいつか再就職するのなら、お尻の重くならない30才までにと決心しました。

この間、公務員の停年がのびるような話が新聞に出ていたので喜んで「ねえ、停年がのびるそうよ」と夫に話したら、「55才まで働かされるだけでもうんざりや」という答がかえつてきました。夫の給料だけで3人の子供をかかえ、本当にきりつめた生活をしてた頃、たいてい彼の同僚たちは家庭教師などのアルバイトで生計を助けていたのに、夫にはそういう意味での生活力というのが皆無なのです。そこが彼の魅力の一つでもあ

るのですが、もし彼が、外でバリバリ働いて稼いでくるタイプの人間だったら、ひよっとして私は彼に頼りきってしまつて、頭の中では経済的自立云々と思つていても、再就職するというエネルギーは生まれなかつたのではないかと思うのです。

それからもう一つ、これも経済的理由なのですが、定時制高校を卒業する頃、私はどうしても大学へ進学したくて、それもどうせ昼間働いて夜間大学へ行くより仕方ないだろうと思つていたら、猛烈に彼が反対したのです。「もうすぐ、オレのヨメサンになつてもらおうと思つてる人が、夜間の大学へなど行つていたら、毎日スレチカイばかりで困る。そんなに行きたいのなら、授業料はオレが払うから、昼間の大学にしてくれ」と。大学へ行くといつても定時制高校出身ですから学力はしれていません。卒業したら教師になりたいと思つていましたので、神戸大学の教育学部と、私立では関学の英文科を受験しました。幸い両方うかつたので、私は授業料の安い神大へ行くべきだと思つたのですが、ここでも又彼が、(彼の家は仁川なので)結婚してからも大学を続けるのだつたら、家から近い方がいいと、仁川にある関学をすすめたので、私もそれに従う事になつたのです。二年生の夏に結婚しました。結婚してからの分はあまり何とも感じないのですが、結婚する以前に彼が出してくれたお金に對して、何か心の負担が残り、いつかは何らかの形で返済したいものだと思つていました。

この間、夫と雑談中、どういふ話のはずみでか、私が、

「今もし私が仕事やめたらどう? うれしい?」と聞くと、
「うん? 今か、今やめられたらちよつと困るなあ、第一家の借金が返されんようになるし、オレの小遣も減るしなあ」といふ

事でした。その時、私は正直いって「うれしい」と思いました。以前私が彼を頼りとしたことがあるように、彼が今、少しでも私を頼りにしてくれて、いる事がわかつたからです。あの時の授業料の心の負担が、少しずつでも軽くなつていくような気がします。

それから、もう一つの理由、これは特に大切な理由なのですが、彼が私の中学の時の担任教師だつたという事から、彼の言う事に私があまりに素直すぎたという事実、それに対して、一度は反旗をひるがえしてみたかつたのです。そのまま彼の言う通りの人生を送つていたとしたら、私は家庭の主婦でおさまつていたでしょう。この頃では昔への反動が高じて、夫は「お前は人のいう事なら、感心してばかりいるが、オレのいう事には全然耳をかきなくなつた」と、時々グチつています。私は「それはあなたの被害妄想だ」と主張するのですが、多少そんな所もなきにしもあらずです。

14才の時、彼とはじめて教室の中で知り合つてから丸20年。最初の10年は、心身ともに彼に傾倒していた時代だとすると、あとの10年は、彼への私の独立宣言の時代といえるのではないかと思つたりします。「わいふ」の歴史が、丁度後者の10年の年月にダブっているのが、興味ある符読のように思われます。さて、次の10年は、いたずらに反発の為の反発も卒業して、お互い一個の人間対人間として、この世での二人の結びつきを大切にして生きて行きたいものと思つていきます。

ある青春(19)

大阪市 津堂 健治

翌日は小雨が降っていた。応召したYの居ない作業室は昨日に変わぬ動きを続けているが、彼の坐っていた検査台が空虚にみえるのである。

開けた窓から工場外の道路が見え、折から菅瀬菊江の「蛇の目」で急ぐ姿が映り、追うようにレインコオトの男が見えたがT課長の特徴のある歩きかたで視野の絶える所で傘とレインコオトは横に並んだ。

「面白くねえゾ、菊ちゃん、あのキサ、課長と一緒に大丈夫かな」友の相馬竜士は深刻な表情で腕組みする。この男は頭が良いのか悪いのか判然とせぬのはそのずんぐりした体格、茫とした大陸的風貌の故か、何しろ東北きつての名刹の次男で父親は紫衣をまとう偉い坊さんである。

「卒業したら寺へ戻り不老不死の妙薬をつくって信者をてなづけ、つもりだ」と嘯き、皆を啞然とさせている。

「法界坊、菊ちゃんがどうかしたの」

仲間は相馬の周りに集まったが、法界坊とは彼の事である。

「T課長が彼女を誘惑しようとしているのだ」

健治達にとってT課長の心象は甚だ悪い、TはN菜とライバル校のK菜出であり、直属の部下Q係長が小心なのをいい事に威張りちらすが、若い女性にすぐ手をむす。女誑し」と専らの評

判である。事実、女工の一人が関係し、両親が押しかける騒ぎになったが、体よく追い払われた。Tは会社の重役の娘と結婚する直前だったので涙金の慰謝料で此の土地から去っていったとか。

暫くTを批難する会話が続いたが菅瀬嬢は意外としっかり者だから先づ心配はなからうと言う結論だ。

学生達が駄べりあうとQ係長はちよろりと顔を出し、作業状態を見に来るが叱言一つ言わず注意もしない、ここの仕事からもう彼の助力は無くなって差異というものは年令の開き位だろうけれど我々も、ノルマは立派に果しているのでQ氏を上役からの苦境に立たせていないと思うのだが。

「Yが召集第一号とは意外だった」

係長が去り、五人は夫々の作業を続けたが山佐大作は充填操作をし乍ら問いかけた。

「彼は「三乙」だからナ」

「俺なんか甲種だもの冷汗がでるよ」

「どおする？」

「どおもならん、せめて今年一杯もたせて欲しい」

健治はくみさんの花嫁姿を想い、彼の心中を察したが、健治とて「一乙」だから冷汗ものに変わりはない。

「次はチビさんの番やないか」

相馬竜士は横の小柄な友を見たが、彼は五尺に充たない。

「おどかすなよ、僕は「丙種」だぜ」

「丙種」だって安心出来んサ」

強兵軍隊の昔ではない、現在は「丙種」だろうと召集令状の容

救ないのは亡き友、酒巻修吉の事実がある。

健治が知る限り友人で徴兵の懸念の無いのは片脚の無いMと台湾籍のRぐらいだろう。

「それはそおと、演芸会どうする」

減入った気分をひきたてるように話題が変わる。

「Yが居ないし、棄権するか」

「残念だな、入賞すれば局方のシロツプが貰えると菊ちゃんが言ってたゾ」

菅瀬嬢の情報は確かだから、何とかしようとなり、健治が脚本を書き逸川が舞台装置を引き受ける事に落ち着いた。

こうと決まると急に作業は活気づきQ係長の目がとまどう程だが、糖分に飢えている若者の姿はいじらしい程である。

＊ ＊

演芸会は健治の演出した軽演劇が大受けてシロツプを獲得したが他の学生グルーブも大半入賞、審査する会社側の配慮だ。

「久しぶりに甘味にありつける」と皆御機嫌だが殊に相馬竜士は張りきって居た。

「小豆のストックがあるからしるこを造り、菊ちゃんを招んで一緒に喰べるんだ」

「嘘つけ、彼女がお前とこへ行きっこ無いゾ」

「まあ、そんなに僻むなよ」

「約束したのか」「したとも、考えておきますと言った」

「ハハア それでは脈は無いネ」「なに!？」

賑やかな応酬だが楽しい帰路だ。

「今頃Yの奴、どうしてらるだろう」

「Yか、彼にも分けてやりたいものだが……」

瘦せぎすで血色の悪いYの歪んだ表情が浮かぶ、彼は故郷の連隊で訓練に汗を流しているだろうか、それとも何処かの地へ発進して了ったのだろうか。

＊ ＊

明治節から数日後、Yの後釜にと他から来た友人が一日だけ健治達と作業したが次の日は、もう居なくなつた。

彼も応召したのだがその後、別グルーブから二名入隊している。

陸海軍予備学生、陸海軍特別幹部候補生等の志願締切日も迫つて大半の学生はその何れかに願書を出し、逸川も相馬と一緒に海軍を志願した。

最初の頃「絶対、志願なんかするものか」と力んだ連中も、学友の応召を見せつけられると慌てて願書を提出してゆくのが津堂健治は応募用紙さえ貰わなかつた。

「受けないで大丈夫か」

逸川の問いに健治は黙つたままだが、山佐大作も同様らしい。

＊ ＊

『し』のや』は江戸の時代から老舗を誇る食堂で、店主の話では先々代までは花魁華やかなりし吉原の廓近くにあつたとか、それが五反田に移つたのは、吉原へくりこむ粋人がワンクツションおく料理屋として創まつたのが現在に至つたのだそうだ。いわれてみれば、構えは学生街にあるちゃやなのとは格段に立派で客も会社員層が多く、卓がフルにふさがるのに百名の余の大きさだが大低の場合満席である。

工場通いの帰途、健治は週に一、二度此の店を覗き、混雑し

た様子にがっかりし乍らも忙しく働く松山としての姿を見とめると何故か安堵した気分ではひきあげる。偶に客のまばらな時はそれを確めてから店内に這入る事になっている。

「いつも空いた時にみえるのネ、不思議だわ」

彼女は微笑して首をかしげ料理を運んでくれるのだが健治もそうした日の夕食はとても愉しかった。

その日、健治は注文を済ませてから彼女に丁劇場の前売指定席券を渡したが当日は『しのや』の定休日だ。

「ま、嬉しいコト、屹度行きませすワ」

帯の間に大切そおに藏いこむ松山としてであった。

丁劇場観劇の前日、健治は工場へ向かう車内で逸川にあう。

「今夜、うちへ来ないか、兄貴が出張で当分戻らない」

車内を見廻し小声で軍の機密作業らしいと告げるが、彼の表情が常になく明るいのに合点がゆく。

一駅毎に混雑はひどく、鉄製ヘルメット・防空頭巾着用者が多い。中に防毒マスク携帯者もあり、それ丈車内が狭くなり、ガラス窓の破損も増している。

「今朝は格別の上天気だ」

破れた車窓から快晴の空をのぞいた時、ブオーンと警報が鳴りだして、満員の乗客から不安な吐息がでる。

「又か、この天候なら視界は凄くきくだろう。」

「畜生、撮影びよりだものナ」

東京上空に米空軍機の飛来は数回あったが被爆の経験は殆ど無い。それは帝都地理の詳細データを上空から写真撮影し、空

襲資料にしているという噂だが、それなら今日は敵さんには絶好だろう。がこの日はそんなものでないのがすぐ後で判った。

二人が降車した時、状況は異様に變化した、ブオーン、ブオーンと、けたたましいサイレンは四方八方から流れる、間違はなく空襲の予告だ、フォームから駅の出口に急ぐ数拾名にざわめきがおこったが制する様に駅員がメガフォンで喚き、檢札どころでなくなった。

「敵機が房総半島から侵入し、間もなく帝都上空に飛来すると連絡がありました」

駅員室のラヂオからヴォリユウムを上げたアナウンサアの声、

——東部軍管区情報、房総半島より本土侵入せる敵機は大型爆撃機数拾機にて東京上空に近接しつつあり——繰返します……敵機は偵察機でなく爆撃機であり、数拾の編隊とあつては、只事でない。

「例のボーイングだろうか」とにかく大変だぜ」

健治達は駅前広場にある防空壕の一つに這入った。空襲警報では勝手に出歩けぬ規則があり、数人の男女がふら／＼歩いていたが防護団員に咎められ、慌てて壕にとびこんだら間一髪、クワンと地響きがおこる、時が時だけに今、這入りこんだ女性が、キヤツと悲鳴をあげるが壕内は静まったままで、彼女の叫びが恐怖をかりたて、続いて無気味な炸裂音が連発すると暗い壕内に不安が充滿してゆく。

雷鳴のするどさを圧縮、大地に亀裂を生じ、クレバスで凝固する。例えば此の場合の戦慄をこお形容してみようか、視界が殆ど零であるのが一層気持を落着かせない。

水い時間が轟音に溶け耳という器管のみがビクビク鼓動する、人々は冷たい危惧の中にある、もし此の上に直撃弾が投下されたとしたら!? あり得ぬと断言は出来まい、満員電車に詰めこまれ、開放された地点がこんな所とは、重苦しい、よどんだ空気の中で溜息のような互いの呼吸音が彼等を益々不機嫌にさせる。健治は思った。ここはまるで死期を待つ老残者の墓場に通じる洞窟だと。

✖

✖

警報解除で壕からとび出し時計をみると僅か廿分しか経過していないが傍の逸川がひきつる様な声で空を指さす。

そこは灰色と朱をイエロウ・ホワイトで塗り潰した油絵だ、嘔吐をもよおしそうな光景で、今朝目ざめた折の秋の空は遠い夢としか考えられぬ。人々の間から呻くような嘆声もれ、暫くは放心の態であった。

広場は高台にあるから周囲の遠望に事欠かぬ筈だが東西南北いづれの方角も同じようにくすんでいる。健治は両親から関東震災の惨状を聞いたが今や、それが再現されたのだ。否、眼下に見られる姿が遙かであるだけに悪い想像をすると、もつとひどいかも知れない。

予感^{予感}は当っていた。

二人は工場へ馳けつけたが就業どころでない。此の辺りは無事だが被爆地帯が何処なのか見当もつかず工場長が着せめた表情で早く帰るようせかすので急ぎ駅へ引返したが途中、すれあう人の容色は殺気立っている。

「この有様だと電車が動いているか怪しいものだ」

歩を早めた友の誰かが口走ったが幸いに車は走っていて、同じ方角に戻る逸川や数名の学友と混みあった車中の人になったが、進行は牛歩のように鈍い。

健治は、いらだつ気持で僅かな空間の中に窗外を見た、どんよりした曇り陽がチラツとかすめるが、その下は只事でない地上の景物がある様だ。N 駅近くに来た、この辺はN 製鋼の大工場があり、ここを通過するのに二分近く時間が必要でシンボルの巨大な煙突が中央に位置している筈。

「アッ、煙突が!!」

窓寄りに立った数名の乗客が同時に唸り、その後の人影から重苦しい叫びが聞かれたが、健治の視線も一瞬異常に変形した鉄塊——往きの車窓から眺めたどっしりした大きな煙突ではなく、鉛のように押しつぶされた——を捉えていた。

それは恰も正装した武将の戦いの末の恥部まで露出した骸^骸ともいえるものだった。彼は声にならず口だけ開いて逸川を顧みたら、その目も凝然と縛られている。

電車は喘ぐように次のA 駅に辿りつくが、それ以上には進まなかつた。爆撃で線路が寸断され、帝都の交通網は完全に断絶されていたのである。

(続く)



読書感想

私の中の沖繩

池田市 小山ヤエ子

先に「わいふ」にも紹介された、岡部伊都子「二十七度線—沖繩に照らされて—」と、大城立裕「同化と異化の間で」の二冊を私も読んでみました。

沖繩について記事やニュースではなしに、まとまった本として私が読んだのは、これがはじめてだと思えます。

このことからおしてもわかるように沖繩については断片的な知識しか持つておらず、またニュース以上の事柄を積極的に知ろうとしていなかった自分の姿勢を見出してしまっています。

私の中で沖繩への関心は、婦人問題とか教育問題への興味にからべると、ぐつと遠いものだったのはいなめません。

ぬかみそ教室に連載されている大城貴代子さんの「復帰後の沖繩を考える」を、読ませてもらっているうちに「ヤマトンチュの—主婦の私の中で沖繩はどんな姿を形づくっているのだろうか」と疑問を持ちはじめました。

そんな時、すすめられて先の二冊を読んだわけですが、読む前と読んだあとで私の中の沖繩は形を変えたのでしょうか。

結論を言ってしまうえば、沖繩の持つ複雑さ（おかれている政治的な立場も、そこでの人々のこころの動きも）にとまどい、頭の中では理解できたような整理が付きかけたものの、本心は

「沖繩は私の中でやっぱり遠い」という実感が残りました。この実感がうしろめたいのです。

子どもの頃から「りゅうきゅう」という言葉でその存在を知ってはいたものの、私が割合はつきりと記憶にのこる形で沖繩に出合ったのは、戦後の映画「ひめゆりの塔」だったのです。

しかし、これもひめゆり部隊のむごさを泪で感性的に受けとめただけで、島津藩以来、本土政府が沖繩にとりつづけてきた非人間的な行政の一環だという捕え方はできませんでした。

この二冊の本の中にも出てくる本土が沖繩になした差別—抱くウチナンチュの怨念ともいえる怒りの底知れなさに、びつくりする自分の無知さ加減がいやになりました。

（それに反して同じ差別でも朝鮮へのそれは、幼い頃より耳や文学から、そして級友にまじっていた少数の部落民の存在から、幼い生活ながら日常とのかかわりの中で受けとめていった部分があるように思えます。朝鮮人への差別、それは私の中で沖繩とはちがって何か罪の匂いのする意識があります。）

大城貴代子さんが書いておられるように、今、沖繩が置かれているさまざまな困難な問題、安保条約を根とする基地、自衛隊、円切り上げによる物価高、海洋博にともなう公害等、どれ一つとってみても本土と関係のない事柄はありません。

本土がつきつけられているあらゆる問題が濃縮されて沖繩に投げだされているだけで、決してヤマトンチュとして他人事として受けとるわけにはいかなない筈です。

例え軽重の違いがあつたとしても、全く同じ質の政治行政のひどさの上に立たされている同民族として連帯の怒りといえる

ものを感じます。

それなのに読み終って何故「やはり遠い」などと、泣くのでしょうか。

くりかえしますが、頭で遠いのではなく肌で遠いのです。

しかし、この遠さは何も沖繩に對してだけでないのに気づきます。本土をとりまいている事柄、いえ、自分自身がおとし穴にはまりこんでいても、「遠い」と鈍感がつていることが何と多くあることかと、身をすぼめます。

公害列島日本にまちがいもなく自分も住んでいるくせに、イタイイタイ病、水俣病、カネミ油脂症、森永ミルク中毒、すべて「ニュース」以上には私の内部で深まらず、通りすぎて行っています。

「一つ間違えば自分のことだ」と、ここでも公害の悲惨さを頭で理解しても、どうしても心につきさす痛みからは遠いのです。公害患者が企業の責任者にむかい手のひらを血に染めて灰皿をたたき割るあの怒りと同化し得ない自分のころをみつめます。

それなのに、先月「わいふ」にも書いたニッコー油事件の時は飛び上がりました。保健所へ電話をかけることからはじまってグループに呼びかけ、市役所、給食センター、衛生研究所へと回答を求め動きました。

お尻に火がついた時だけ走りだす身勝手なエネルギー。

どこかで火がついていると知り、認めていても、我身が熱くなければ「大変だ、大変だ」と、顔をしかめるだけで居座っていられるはず太さ。

おかれた状況を知った時、ひどいと喚いても、その怒りを持続させず、ましてや行動にはうつつせず毎日のくりかえしの起き伏しの中で見失ってしまえる無神経さ。

それが、沖繩を「遠い」としか捕えることのできない自分の本体だと、うしろめたいのです。

ですから、岡部伊都子さんが京都にすむヤマトンチュでありながら、あれほどに沖繩の痛みを自分の体の中にとかしこみ、やせ細るほどウチナンチュと同化できることに心底感嘆し、そのひたむきな魂にたじろぐ思いです。

そのたじろぐ思いを持ったまま、大城立裕氏の「同化と異化の間で」を読んだわけですが、正直いつて失望しました。

「二十八度線」を読んだあと、ウチナンチュがその場で沖繩をどう捕えているかを期待して沖繩出身の直木賞作家、大城立裕氏のエッセイにふれたわけです。

岡部伊都子さんよりも、ずっと醒めてはいても、真底にがにがしい告発がとぐるをまいているだろうと想像していましたが、そうではありませんでした。

例えば毒ガス輸送についての項で大城氏が問題としているのは、基地そのものへの告発ではなく、毒ガス輸送をマスコミが大げさに取り上げすぎ、政治的に色づけすぎているという点にしぼられているのです。避難する住民は、マスコミが騒ぐほど毒ガス輸送に神経をとがらせていないとおおさわぎする関係者に皮肉な目を注いでいるのです。

ひっくりかえっていると思います。例え、大城氏が指適するように、マスコミがこの事件を政治的に利用したふしがあった

としても、「毒ガスが基地に持ちこまれていた事実」を問題点の核にすえる時、沖繩全土の基地化へのいきどおりが前面でくるはずで、輸送にまつわるこの種のエピソードはあくまでこぼれ話として扱うべきだと思いますが、もっとも本質よりそれたエピソードだけをひろいあげ、集めてエッセイ集をつくるのがこの本の目的だとするならば、それはそれとして文句はつけられないわけですが、ともかく私の好みにはあいません。

沖繩という一つの問題を考える場合、自分と全く異なる問題提起の仕方であってもいいし、自分とあい入れない行動方法であってもいいのですが、(それぞれ個人の自由ですから)ただひとつ、沖繩の行方にたいする真しな気迫に貫ぬかれていないと自分と異なるグループを批判する力にならないと思いました。ひたむきな態度をとりつづける岡部伊都子さんが大城立裕氏をなじるなら話はわかりませんが、いい加減な私にはそんな資格はないのかも知れません。しかし自己弁護をしています。

せめてお尻に火がついた時だけでも走りだす熱と力は失なわないでおこうと。

お尻に火がついていると感じる部分を、少しずつでも抜けてゆく努力をおしまないようにしよう。

この二冊の本を読んだあと、沖繩の平凡な主婦が、日常生活に裏打ちされた意識と実感で沖繩をとりまくさまざまな問題はどう受けとめているのか、とても知りたいと思っています。

そんな本があったら、おしえて下さいませんか。

「主婦とおんな」

国立市公民館市民大学セミナーの記録
未来社 七五〇円

わいふ会員の多くの方は、この本の中でとり上げられている問題に、深い関心をよせられることと思う。

本書の内容については、私などが下手な紹介をするより、もっと適任者がおられるであろうし、さらには、直接手にとって読んでいただいたほうが、ずっと実感がわくことでしょう。

そこで私は、この中のメンバーでたまたま個人的に知っている人があるので、本書をめぐる裏話をひとつ紹介し、それを通じて、学習とその公表、実像と虚像といったものを考えてみたい。昨年の夏、彼女に会ったときのことである。

「Mさんは、私たちの勉強した結果を全部とり上げてしまった。チヨロツとやってきて、自分では何もやらないで話だけきいて帰り、それを他所で、自分のものとして発表しようと思えてきている。だから、作家だの評論家だのという人間は大嫌いだ」といつていた。

そうしたことは、世間には往々にしてみられることではある。『一将功成り万骨枯る』という諺もあるくらいだから。

しかしある面では、お互いまでではないかとも思う。なぜなら——彼女達は、たしかに一生懸命勉強もし、考え、悩んでもきている。しかしそれは、公民館の立派な目標と指導方法があつて、そのレールの上を熱心に走ってきたにすぎないのではあるまいか。しかも勉強してきた事柄は、単に自分の内にとどまる

ことなく、社会的に名のある人のおかけで、世間に公表される機会が得られたのである。公民館側のIさんの力が相当に大きいらしいことも、本書を通読すればわかる。

私は、具体的に数字をあげることとはできないが、これに似た自主学習をやっているグループは、全国にゴマンとあるように思う。それが文化都市に直結しているか否かで、存在の華やかさに差がついてくるのである。さきほどの諺に対するものとしてあげるならば、『よらば大樹の陰』ということになろうか。

なお、本書が活字になるずっと以前の、ほんの一部ではあるが、原稿をみせてもらった時と、出来上りとでもあまりにも差が（指向するところ）あるような気がして、それが却って薄気味わるい。平生考えていることは、さしてかわりないようになりけるのに、「本になるのだから」という気負いのようなものがはたらかなかったかどうか。

私は、活字の魔力というものを考えると、（特にこういった種類の本の中味は）幾分差し引いて受取りたくなるのである。

もつとも、私が指摘しておきたいのは、機会を得ずに埋もれたままになっている、すぐれた成果が多数存在するであろうということ、それらが、一日も早く陽の目をみてほしい、そして更に、これらすべてが連帯して、運動がより大きく活発になってほしいということである。

ともあれ、本書には、女が人間として生きるために解決しなければならぬいろいろな問題（子供、夫、職業、老後、——生き甲斐——）が、それぞれの人の立場を通して盛り込まれており、一読に値する本と思う。

(S)

日本沈没——SF長編小説——小松左京著

カッパノベルス（上下）各四三〇円

「SFというのは未来の社会が、未来の文明がどうなっているかを書かなければならない。日本の文化が社会がどうなっているか考え調べたときに、日本つてのは他の国に比べて、大変ラッキーな国だつてことが判つたんです。島が四つあつてそこへ早くから国をきずき、例えば、ジンギスカンとかアツチラとか、物凄くめちやくちやに蹂躪（じゅうりん）されたこともないし、ヨーロッパの人口が昔に減つたベストみたいなものもない。しかも気候が大変いい。しかし他の世界の連中みてもたら、流浪の民はあるし、一民族の文化が完全に消えてしまつたものもあるし、イギリスのケルトのように他民族に完全におしつぶされたものもある。日本はそれがない。日本人つてのは外へちよつと出ていじめられれば、この四つの島に逃げ込んで倅せに暮せる。このラッキーな逃げ込む穴をふさいでしまつたらどうだろうか」

という意図の下に書かれたこの本、いまや巷の話題本らしい。地震がひんぱんに起こり、そして遂に日本列島が沈んでしまうという極限状態におかれたとき、政治家はどうするか、財界人は科学者は、民衆はというのをどこどこまかに書いてあつておもしろかった。ただ地質学、地震学の専門用語や説明がぐだぐだ出て来たりするところは、こういう事に興味のない私には少々読みづらかったけれど。時々、地震があつたり、最近ほんとうに海底噴火があつたりする日本、空想の世界と笑つて済まされますかしら。日本沈没、あなたならどうされますか？（十日市）

【お便り】

枚方市 樺 逸子

前略「わいふ」発行所の皆様御骨折の程、感謝申し上げます。平素、身辺にかかわる、生存在いたします為の日常生活の上に、云々致し度き事、絶える事はございませんが、目下、上の三人年子の大学生と中学生の養育に、明暮れております故に、あまりにもめまぐるしい日々の中、わいふの到着は、一つのたのしみに他なりません。娘二人が、東京の女子大学に学びます為に、三月より、やっと目白に二人を合流させる住居を手に入れ、行つては一寸住んで見ますと、真近かに学習院大、中、小、又は田中角栄私邸のありますが故に、何と特殊な事か目につく事かと存じる次第でございます。そして、首都東京と、大阪の風土と人情に世相の反映している実態など種々感じられます。何とか時間を得て、感じる事をつまびらかに書き綴つて見たいと念願してすこしております。

※※※※※※※※※※ 編集部よりのお願

◆ 全会員に、母親が外で働くことについてに関するアンケートを求めることにしました。
テーマ原稿の集まりが芳しくないものですから、この際、広く全会員に、かなりくわしい設問を考えてみたつもりです。ゴチャゴチャ答えにくい点もあろうかと思いますが、その点は、皆さんの御考えで自由に設問をアレンジして下さい結構です。

テーマでは「母親が……」となっていますが、母親という言葉にこだわらず各々の立場から御回答願います。とにかく「わいふ」としては、一人でも多くの答が、欲しいのです。

◆ 別添の用紙にご記入の上、七月末日までに編集部宛お寄せ下さい。
◆ 会員名簿作成についての御返事もぼつぼつ集まっております。一人のこらず、完全なものに作り上げたいと思っております。皆さまの御協力お願いします。締切り日は、別項アンケート回答と同じ七月末日ですので同封して下さい可。
会員名簿についての詳細は、114号の34頁をご覧ください。

六月例会のおしらせ

日時 六月二十四日(日)午後一時〜四時

場所 高木さん宅

テーマ「わいふ」SFの世界に挑戦

日本沈没上下(小松左京)を中心にしながら。

女性はややもするとSFを科学的、空想的なものとして敬遠しがちなのではないのでしょうか。今、話題の「日本沈没」には、現在の日本の政治・経済・文化等、あらゆる面での問題提起が行なわれているのではないのでしょうか。SFにツヨイ方の御参加はもちろん、ヨワイ方も、大いに御参集下さい。
果して日本に未来はあるのでしょうか。

編集後記

● 五月例会は、出席の予定者が慶事あり、弔事ありで、結局小山・高木・後藤の三人だけが集まりました。「わいふ」の例会としては流して、三人のおしゃべり会にいたしましたので、あしからず。

尚、五月例会のテーマ、十周年記念特集の内容については、今後、折々に少しでも沢山の会員の意見を集めるつもりでいます。今回のアンケートにぜひご協力下さい。(後藤記)

● 昔にくらべ核家族の多い現在は、日常生活に於て、主婦をまわりから監視する目が少なくなりました。朝早く出て夜遅く帰って来る夫は、家の中の手ぬきに、少数の例外をのぞいては気がつかず、子供の方もこれ又、食事という大きな実権をにぎっている母親の批評家にはなれないしで、掃除を一日さぼろうが、料理に少々手をぬこうが、昼寝をしようが、それほど小さくならなくても毎日がすごせます。三食昼寝付と悪口を言われますが、確かにこれにテレビ付で暮そうと思えば暮せる幸せ？な世の中です。(こんな事を書けば「わいふ」の皆さんにおこられるかしら…)洗濯は一日休むとそれだけ洗濯物がたまりまですし、掃除も一日サボれば、それだけよごれがたまり、後で余分の労力がある事も確かですが、ホコリがたまつたからといってすぐ生命に別状あるわけではなし、少々のヨゴレ残りさえ気にならなければ機械がどん／＼片付けてくれます。近所に口うるさいおばあちゃんもないし、家にもお姑さんや小姑がいなるとなれば、まあたまにぐちをこぼす夫と自分自身の心の持方

しかなまけ心のブレイキとなりません。家事以外の事で、今ほど主婦一人／＼の生き方が、その人自身の責任にかかわっている時期は、今までなかったのではないのでしょうか。

——これは私自身への自戒のことばです——

● 今月の照井陽子さんの原稿は、編集部の方で、勝手ですが「テーマ原稿」と「渡辺様へ」とにわけさせて頂きましたので、ご諒承下さい。

● 大城貴代子さんの「ぬかみそ教室」は、お忙しい為か編集日に原稿が未着で、誌面の関係もあり、今回はお休みにさせて頂きました。

● 今月は「編集部よりのお願い」にありました様に、アンケート用紙を同封しておりますが、いつもの32頁で送料がギリギリの為、アンケート分の目方だけわいふ誌の方の頁数が少なくなっております。薄いわいふは残念ですが、テーマを掘り下げた為にもぜひアンケートをお願いしたく、まあ今月は内容で勝負といたしましたので、この旨ご理解下さいませ。

● 松山市の長栄豊子さんが、こちらでお勤めの御長男が結婚してお住みになる家をご存知でしたら、編集部までご連絡下さい。方方面で適当な家をご存知でしたら、編集部までご連絡下さい。

● 原稿・誌代の送り先が、四月からかわっています。おまちがいのないよう、左記へお送り下さい。(鈴木記)

〒665 宝塚市仁川宮西町一―七二 わいふ編集部
尚、会費に端数が出ないよう

四カ月〓五〇〇円 六カ月〓七五〇円

八カ月〓一〇〇円 一年〓一五〇〇円

という単位で送金いただくと助かります。

毎月一回十日発行

原稿・誌代の送り先

〒665 宝塚市仁川宮西町1の72

「わいふ編集部」

発行人 高木由利子

発行所 わいふ発行所

振替口座番号 神戸19515

印刷所 百合写植印刷有限公司

誌代 一部 百円（送料25円）

原稿〆切 毎月二十五日（以降翌月まわし）